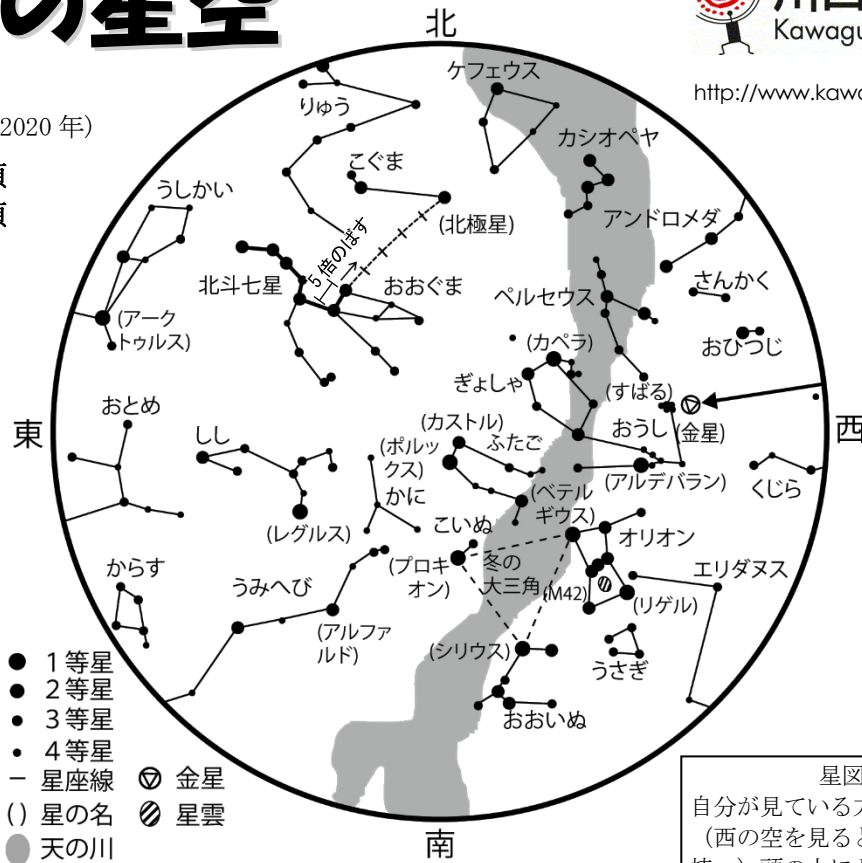


今月の星空

3月 (2020年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下にして、
(西の空を見るときは西を下にして
持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ●上弦 3 日、○満月 10 日、◐下弦 16 日、●新月 24 日

惑星情報 金星 夜のはじめ頃 西(うお→おひつじ座 -4 等) 火星 明け方 南東(いて座 1 等)
木星 明け方 南東(いて座 -2 等) 土星 明け方 南東(いて→やぎ座 1 等)

☆冬の星座を見送る春の星座たち

暖かい日が増え、春らしくなる3月。オリオン座を中心とした冬の星座たちも南から西の空へと移り始めました。とは言え、この冬、大幅に暗くなって注目を集めたベテルギウスや天頂付近にあるふたご座など、冬の星座はまだまだ存在感があります。一方で、東から春の星座が昇ってきました。冬とは対照的に明るい星が少なく、冬の凜とした星空に比べると、これからの時期は春がすみも手伝って優しい印象の星空となります。

南側の空で目立つ星は、しし座のレグルス(1等星)とうみへび座のアルファルド(2等星)です。アルファルドの意味は「孤独なもの」。周囲に明るい星が少ないところから付いた名ですが、卒業シーズンのこの時期に見ると、冬の星座たちを西へと見送る寂しさも感じさせます。

☆動かぬ「北極星」・沈まぬ「北斗七星」

北東の空に目を移すと、春の宵空に昇る北斗七星を見つけることができます。特徴的なひしゃくの形をしているため、この時期、最も見つけやすい星の並びのひとつです。北斗七星を見つけたら、北の方角の目印である北極星も見つけましょう(上の星図参照)。

北極星はほとんど位置が変わりませんが、例えば、北斗七星を一晚(数時間)観察すれば、北極星の周りを反時計回りに動いていく様子も観察できます。特に北極星の周辺にある星は、一日中沈まず、周極星と呼ばれます。川口では、北斗七星やカシオペヤ座の星(一部は沈む)が周極星です。

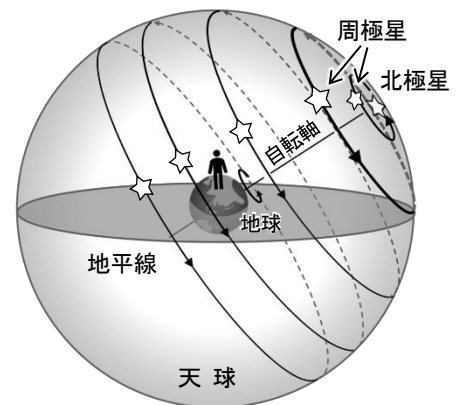


図 北極星と自転に伴う星の動き

☆火星・木星・土星が集合!

明け方近くの南東の空では、火星・木星・土星の3惑星が近くに見えます。木星と土星は位置の変化が少ないのに対して、火星はその変化が大きく、日ごとに東へずれていく様子がわかります。初旬には一番西寄りにあった火星が、20日頃に木星、31日頃に土星に近づきます。